

平成28年度共同研究

結城紬染色生地見本帳の作成と新製品開発

担当部所： 栃木県産業技術センター紬織物技術支援センター
共同研究者： 渡辺染色店

背景

色彩にこだわりを持つ消費者が増加
⇒“色見本”への潜在的な要望が徐々に顕在化
染色／製織業者が単独で見本用生地を製織するのは、設備、手間等に課題

需要動向に対応するため、代表的な色彩と組み合わせについて生地見本帳を作製し、要望に応える。



地機(じばた)
※結城紬の製織に用いられる



本研究に関連するセンターの
技術的蓄積

研究目標と結果

研究目標

- 前年度に引き続き生地の製織し、見本帳の作製を完了する（全300パターン以上）
- 代表的な組み合わせについて耐光堅ろう度試験を行い、変退色の傾向を評価する
- 見本帳の活用事例として、配色を基に生地を製織し、小物試作品を製作する

実施内容

① 見本帳の作成

- 2反目緯糸は計21色
- $8 \times 21 = 168$ パターンの生地を作製
- 1反目と併せて**329**パターンの生地を作製



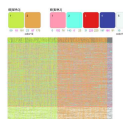
図①-1 完成した見本帳



シートA：経糸（ステンシル）
シートB：緯糸＋生地を貼付
A、Bを重ねて使用する

③ 小物用生地の製織、試作

- 織物シミュレーションにより横縞柄を設計
- 糸本数、製織長さを設定して生地を製織
- 1パターンあたり30～50cm
- 5種類の小物を試作



図③-1 製織シミュレーション



図③-2 製織した生地



図③-3 試作した小物

② 耐光堅ろう度の評価

- 長期間の使用を想定し、通常より厳しい4級の条件（フェードメーター20時間照射）で処理を実施
- 経糸と緯糸の堅ろう度が大きく影響
- 経糸と緯糸の色相の違いが大きいと、変退色が判りにくくなる場合がある。



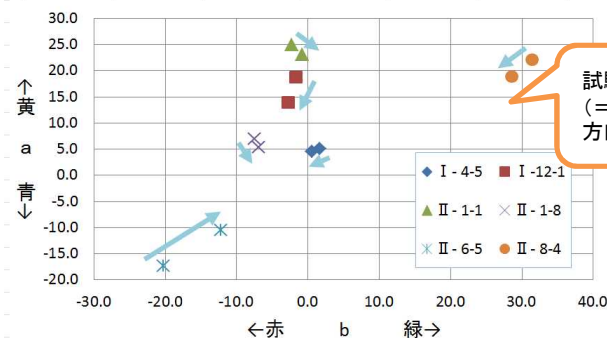
図②-1 耐光試験機
※繊維C所有



図②-2 カーボンアーク照射後の試料



図②-3 耐光試験の判定



図②-4 カーボンアーク照射後の色相の変化

試験後は原点
(=彩度が低い)
方向へ変化する

まとめ

- 製織巾を基に見本帳の規格を決定し、合計329パターンからなる製織生地見本帳を作製した。
- 耐光堅ろう度の評価を行った結果、経糸と緯糸の色が大きく異なる場合、同系統の色相の組み合わせに比較して変退色が目立ちにくい傾向が見られた。
- 生地見本を基に、メインカラー2色を選択して小物様生地の製織を行った。製織した生地を使用し、生地見本帳の活用方法の提案事例として、バッグ等の小物を試作した。

ご来場の皆様へ

問い合わせ先：栃木県産業技術センター紬織物技術支援センター TEL 0285(49)0009

- 本研究で作成した生地見本帳は、紬織物技術支援センターにて閲覧可能です。
- 結城紬産地での企画、デザイン支援に関する技術力向上が期待されます。

